投見

春闘五年。平均月収五万円～五万五千円）
妻の私（三十六才。無職）
子ども（中学二年、小学五年）
月平均生活費＝六万円～六万五千円。
生活費の赤字分＝一万円～一万五千円。
炭労要求を満額獲得してやっと食ってゆけるということになるが、坑内の危険な職場のことを考えると、不幸にしてケガをしたり、病気にでもなれば、たちまち賃金ダウンとなる。生活の困窮は目に見えている。

なんと手ごたえのない事か！

四山支部　一主婦

春闘で、ストがうたれる。その減収分を日曜出勤や残業で補うといった考え方では、この低賃金生活からぬけ出すどころか、炭労の賃上げ要求さえ獲得することはできないと思う。

第一、三井が支配している大牟田・荒尾の地では、炭鉱の低賃金が地場賃金を引き下げていることに、もっと目を向けてほしいと思う。

私はいま声を大にして、次のことを叫ぶ。

「食える賃金をよこせ！」

「夫を、安心しておくり出せる職場をつくれ！」

×

この欄へ、主婦の皆さんのご投稿を期待します。なお前号の本欄に、匿名の上郵便でご投稿下さった方は、編集部までご氏名、ご住所をご連絡ください。【編集部】

やもすると、ただ聞き流してしまうような危険性がたぶんにある。

炭鉱の、食えない賃金。食える賃金を引き出すために、ただ一つ、私たちが権利としてもち得ている、労働者の武器であるストライキをかけて闘うはずの春闘。

しかし、体の中からわき上がってくる意気ごみの、なんと手ごたえのないことか。

たとえ要求額の何十パーセントか獲得しても、差額を手にしてしまうと、あとは〝合建〟（ごうだて。賃金の差別手段に昔から使われている）とやらで、上がったはずの賃金が逆もどり。

いきおい、かろうじて生計を支える主婦の内職に重点がおかれる。でも、主婦が働ける家庭はいいとして、病弱やその他のために主婦が働けない家庭は、いったいどうなるであろうか。

石炭産業の斜陽化がいわれ、低賃金がますます低賃金となり、労働条件が低下してゆく。反対に諸物価は値上がり。当然、ますます苦しくなってゆく生活。

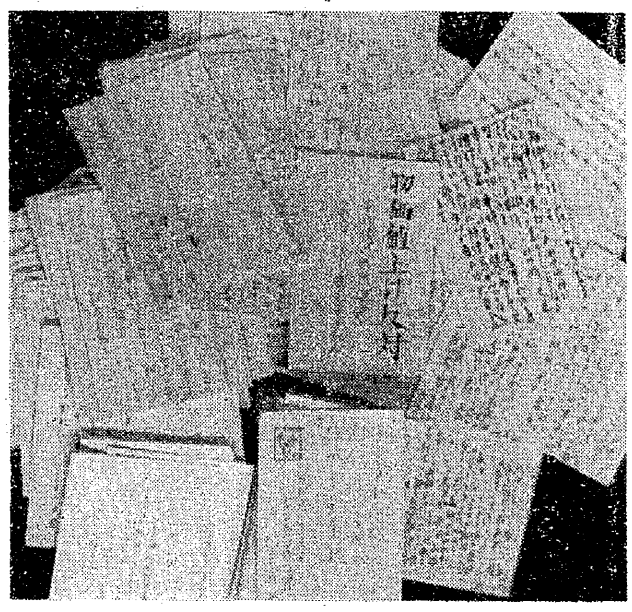
このような悪循環の中で、私たちが迎えた春闘。

夫（四十才。勤続年数二十

拝啓、田中角栄総理殿

このほど三池主婦会は、全主婦会員に何はともあれこの物価値上がりに何のテもうとうとしない現内閣の首班・田中角栄総理に対して、抗議のハガキを出そうと呼びかけたところ、それをきっかけに主婦の間から怒りの炎が猛然と燃え上がり、アッという間に山のような抗議のハギキが主婦会本部役員の手もとに集中してきた。

主な内容は、一日も早く物価の安定策を講じて、国民生活への政治責任を果たすよう強く要求している。ここには、そのハガキの中から幾つか拾って紹介しよう。



×

拝啓、田中総理殿。貴方が総理大臣になられたので、従来の総理大臣とは違った政治を進められるものと考えていました。

ところが昨年十月よりの引き続く物価値上がりは、政府を攻撃しないNHKでさえ、国民の生活がどうにもならぬ所まできたことを告げていました。

大資本のみに手を差しのべ、国民を見殺しにする貴方には、総理大臣はおろか、政治家としての資格もありません。

直ちに物価引き下げに着手するか、総理大臣をやめるか、責任をとって下さい。

×

桜の花も咲き、若葉の季節が訪ずれ、さわやかであるべきはずなのに、次々とおし寄せる物価値がりに青息吐息の毎日です。

一日として欠かすことのできない食料品はもちろん、生活必需品、交通費等々の値上がりの中でどうして生活していけといわれるのですか。

田中総理は、私たち低賃金労働者の生活を少しでも考えてみられることがあるでしょうか。最近の物価値上がりには、驚きをこえて怒りでいっぱいです。

それは、田中総理、あなたの責任です。

×

総理大臣殿。去年の暮れに、ジンギスカンを食べました。マトン一人当り二〇〇グラムで八十円。昨日、四カ月目にジンギスカンを食べました。マトン一人当り一〇〇グラムが八十円。

×

大豆、木材、モチ米、ガーゼ等々の、大商社の不当な買い占め反対。健保、国鉄値上げ法案反対、筑波大学法案反対。

米の買い占めまでされては「米騒動」「まるで戦時中だ」との国民の怒りが高まっていることを、貴方は知っていますか。

心からの怒りを感じ、強く抗議します。

×

給料の方が上がっていないので、一人当り八十円ですませましたが、マトンの目方は二分の一に減りました。お腹は、お陸でハラペコでした。

絹の着物は着なくても死にませんが、食物は買わずにはすみません。

一番安いマトンの肉で以上の通り。食べものの怨みは恐しい、とは昔からいわれておりますが、そのの通りでもうがまんなりません。

この怨み、きっと選挙ではらします。

×

天井知らずの物価上昇を、何とかしていただきたいものです。

建築資材のハネ上がりでマイホームの夢くずれ、ミソ、醤油、肉などに学校給食費、衣料、日用品と、とにかく生きて行くために買い求めねばならぬすべての物が、あれよあれよという間の値上がり。

三井鉱山勤続二十五年の主人の給料が、手取りで四万円。高校へ二人、小学一人。主婦の私が必死で働かねば、子供を学校にやり、家族五人が食べて行くことができません。

真面目に働きさえすれば、幸福に暮らすことのできる日本の国にして下さい。

×

前略ご免下さい。

私の夫は、来年八月、三十七年勤めた三池炭鉱を停年で退職します。

停年になったら家を建てることが夢でしたが、今日の土地や木材の値上がりで五百万円位いの退職金では、長年の夢も消え果て、とくに最近の物価高では一日一日の暮らしにさえつかれ果ててしまいました。

こんな世の中になった最大の原因は、あなたの日本列島改造論にあると思います。

大企業の土地の買い占め。大豆や羊毛、木材などの買い占めは、国民生活を破壊する。こんな大企業の横暴を野放しにしているあなたは、すみやかに総理をやめて下さい。お願いします。

写真は、主婦会本部に殺倒した田中総理への抗議のハガキ。ほんの一部。

物価上昇のこの苦しみ必ず怨みは晴らします

我が家で、平和に……

新婚当時の夢だったけど

主婦の手記

主人は、四十二才の仕繰工で、二十四方出勤してその給料は手取り五万六千円です。

私達、結婚して以来、今年の三月十五日で十五年になります。

主人の勤続年数は二十六年を過ぎ、中学三年と小学五年という男の子ばかり二人います。

長男が生れました昭和三十三年の暮れ頃から、会社はすでに組合ぶっつぶしの計画を練り上げ、やがては千二百名の首切りとなり、組合は反対闘争に明け暮れました。

その頃の主人は、月二万二千円の給料を取り、子供のミルク代に五千円使いますと、後の七千円で何もかもしなくては出来ず、七千円はまたたく間になくなっていました。親の財産も何もありませんでしたが、しかし新婚当時はわずかながらも貯金をして、長男が小学一年になるまでには自分の家を建てて平和に暮らしたい、と夢見ていました。

ところが現実はそう甘くなく、三百十三日の闘いでわずかな貯金も吹っ飛び、私の夢は消え去りました。主人達は平和宣言と共に就労しましたが、それまで働き続けて来た現場からハネ出され、差別を受け、給料は少くなり、会社からどん底の生活にまで追い込まれました。

私は考えました、こんなにしてまでも闘ってゆかなければならないのだろうか、と。私は娘時代に編物の技術を身につけていました。その技術を生かそうと、ある編機の会社に入社し、編機を買われた家庭への、編方の指導に励んだのです。

ちょうどその頃、二人目の子どもが二才になっていました。

たまたま個人指導のためにある家を訪ねますのに、その子どもを連れていったことをその家の奥さんから会社につっこまれ、社長よりやかましく言われた事もあります。

「仕事してゆくのに、子どもを連れてゆくとは何事か」。

その後は、その家へゆく度びに「子どもさんはどうしていられますか」と尋ねられるのが、一番頭を悩ましましたので、そこで私は「私には、仕事以外の家庭の様子など聞かないで下さい」、と言った事もあります。

その後、子どもは保育園に入園させ、一生懸命生活のために頑張りました。「何日かは必ずしあわせが来る」と、自分の心に言い聞かせながら。

私は職場を点々としましたが、それは、わずかでも給料の多い所を、と思ったからでした。

また、努力もしました。たまには「主人というものがいながら、自分は何に酔かぶってこんなに働かんなんのか」、と情けなく思ったこともありました。

ボタン雪が降り続き、ぬかるみの中に靴をめり込ませながら、ただ一人外交員として田舎道を歩き続けた日のことも、忘れることが出来ません。

時には、子どもの将来が心配になる余り主人につっかかる日も来る様になりました。そんな時、主人はいいました。「文句ンあるなら、三井に言え」。

組合の分裂。その時もう生れていた長男が今中学三年生にまで成長し、その頃はまだ生れていなかった次男が小学五年生です。

〝植物人間〟といわれているCO患者や、昭和三十八年の三川鉱大爆発犠牲者遺族の皆さん達といい私達といい、何日になったらしあわせになることが出来るでしょうか。

たとえ、二万円は――と思っていた炭労の賃上げ要求が、一万五千円だったにしても、それならばいっそう、せめてその要求くらいは、満額獲得しなければ、と心から願っています。